

サブリーダーも残り2か月…

新年がスタートしてあっという間に1か月が過ぎ、寒さの厳しい2月を迎えました。雪の影響で休み時間に外で走り回ることができない分、子供たちは、静かに本を読んで友達と過ごしたり、みんなで声をかけて一緒に縄跳びの練習をしたりと、工夫して過ごしています。どんなときも、元気あふれる5年生の子供たちです。

そんな子供たちに、5年生として残された時間もわずかです。目の前の課題に根気強く取り組んだり、全校のことを考えて責任をもって仕事をやり遂げたりする経験を通して、最高学年になる心構えを少しずつ育てていきたいと思えます。

初めての雪上野外活動

1月21日、国立立山青少年自然の家で野外雪上活動を行いました。色団や学年のみんなで協力してかんじきを履いて雪の上を歩いたり、チューブそりに乗って長い坂を滑ったりしました。子供たちは普段できない遊びを楽しみ、のびのびと活動していました。笑顔で楽しそうに活動する子供たちの姿を見て、寒い雪の中でも心が温まりました。



子供たちの感想より…

- ・かんじきでは雪道を歩くのが大変だったけれど、最後まで一生懸命歩くと、絶景が見ることができました。晴れていたなので、みんなできれいな写真を撮ることができてうれしかったです。(H・S)
- ・チューブそりでは一人ですべったり友達と一緒にすべったりして、とても楽しかったです。かんじきでは、履き方を教え合っている姿や、かんじきが取れなくなっている人を助け合う姿があって、みんなで協力して活動していました。(Y・S)
- ・心に残ったことは、雪山が見える絶景を見ることができたことです。その道中では、動物の足跡もありました。雪上活動では、いろいろな人が「気配り・目配り・心配り」がしっかりとできていて、いいなと思いました。(M・K)
- ・かんじきを履いたり片付けたりするのが難しかったけれど、昔の人はこのかんじきを使っていたことがすごいなと思いました。チューブそりやかんじきを体験できたのも、富山県で生まれて住んでいるからだと思って、富山県のことがより大好きになりました。(I・K)

初めての木版画「はんを回して～一版連結版画～」

3学期の図工では、初めての一版連結版画にチャレンジしました。一版連結版画とは、一つの形を角度や位置を変えて刷ると、連続や不思議な形を生み出す正方形の版画です。はみ出さないように丁寧に板を彫ったり、色がしっかりと乗るように丁寧に刷ったりして、個性的な作品が仕上がりました。一人一人の個性あふれる作品がとても素敵です。

